



◆漱石も参加した
活発な句会の記録

正岡子規（一八六七—一九〇二）は愛媛県の松山出身。政治家を志して上京し、第一高等学校在学中の明治二十二年（一八八九）、生涯の友となる夏目漱石と親しくなりました。

同年五月、肺結核と診断された子規は、明治二十三年、帝国大学文科大学哲学科入学。翌年、国文学科に転科。その後、大学退学を決意して日本新聞社に入社しました。

新聞『日本』では紙上を中心に文学活動を行い、俳句革新運動に着手。与謝蕪村（一七一六—一七八四）の句を高く評価し、「写生」

の重要性を説きました。子規と彼を慕う人々は盛んに句会を行います。彼らの句会は、参加者が互いに句を選ぶ互選方式が採用されていました。

誰がその句を詠んだのか分からないように配慮し、それぞれの題ごとに各人の句が書かれた「浄書（じやうしょ）」を作成して回覧。その中から、それぞれが優れた句を選んだ「選句稿」を作成する。選ばれた句の作者に点数が入り、点数の多い作者が勝ちとなるという開放的なものでした。

また、このように選ばれた優れた句が新聞や雑誌の俳句欄に掲載されるなど、俳句革新運動を進めるため

にも活用されました。本書は明治二十九年春・夏から三十二年九月までの句会の記録で、各句会で用いられた回覧用の浄書と選句稿八冊分が、製本されずにそのままの形で伝えられています。

この中には熊本で教師をしていて、まだ作家にはなっていないころの夏目漱石が、帰京時に参加した明治三十年七月十八日の句会稿が含まれており、漱石自筆の選句稿も残されています。子規・漱石各自筆の選句稿には、お互いの句が選ばれており、句会の様子が今に伝えられる貴重な資料です。（天理図書館 西口尚子）

<天理図書館のお知らせ>

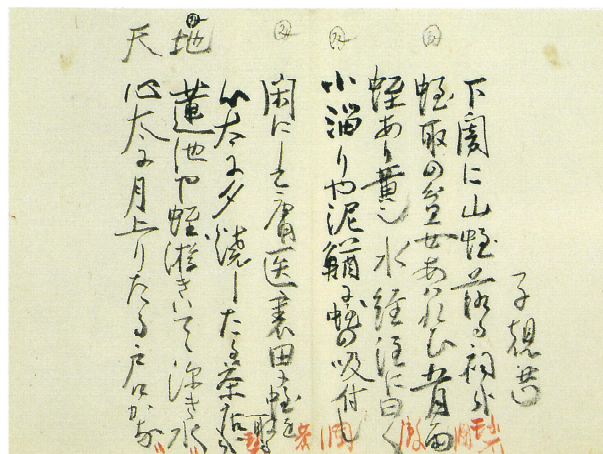
Tel 0743-63-9200 URL <https://www.tcl.gr.jp/>

◇平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）

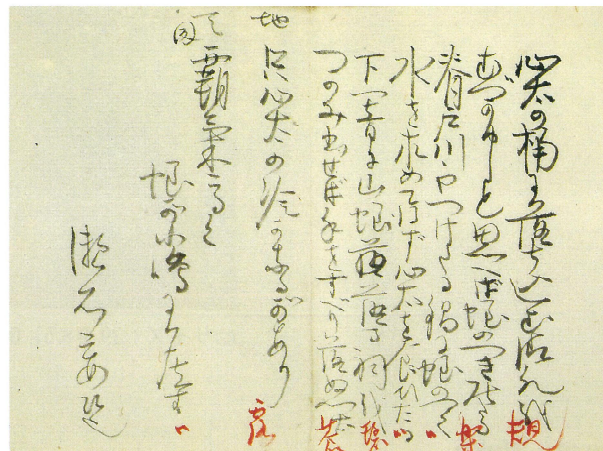
本書は、天理参考館で10月15日～11月17日開催の「漱石・子規・鷗外—文豪たちの自筆展—」にて展示します。

※最新の情報については公式HP、X（旧 Twitter）でご確認ください。

子規庵句稿別集



子規選句稿



漱石選句稿

▶【しきあんくこうべっしゅう】

正岡子規等各自筆

8冊

明治29年～32年頃

縦24.4cm 横32.4cm

